



アドビシステムズ株式会社が Adobe Document Server for Reader Extensions 日本語版を発表

特別な機能権限を付加した PDF ベースの電子フォームを生成し、
Adobe Acrobat Reader による電子申請や、企業内の業務プロセスの電子化を実現

【2003 年 4 月 22 日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：石井 幹）は本日、政府機関および企業向けに、電子申請をはじめとする、フォームやドキュメントベースの業務プロセスの電子化を実現する新たなサーバベースのソフトウェア「Adobe® Document Server for Reader® Extensions 日本語版（アドビ ドキュメント サーバ フォーリーダー エクステンションズ）」を発表しました。

Adobe Document Server for Reader Extensions を用いることにより、政府機関および企業は、特定の Adobe PDF（Portable Document Format）フォームやファイルに対して、Adobe Acrobat® Reader 上で電子申請やコラボレーションを実行するためのインテリジェントな機能を利用可能にする「特別な権限」を付与することができます。

従来の Adobe Acrobat Reader は、PDF ファイルの閲覧および印刷、PDF フォームへの入力および印刷を行うためのもので、ファイルの添付やコメント挿入等のファイル操作は行うことができませんでした。昨年 11 月から配布を開始している Adobe Acrobat Reader 5.1（アドビ アクロバット リーダー 5.1）から、Adobe Acrobat Reader で注釈ツール、電子署名、記入済みフォームの保存、記入データの送信、等、電子フォームやファイルをインテリジェントに扱うための機能が追加されましたが、通常の PDF ファイルではこれらの新たに追加された機能は使用することができません。これらのいわば“隠し”機能は、Adobe Document Server for Reader Extensions によって、それらの機能を利用可能にする権限が埋め込まれた PDF フォームあるいはファイルによって使用可能となります。

電子フォームに対してこれらの機能を使えば、利用者はデータを入力し、それを電子的に保存したり印刷したりして原本を残しておけますし、電子署名を施すことによって本人証明を行うこともできますので、例えば政府機関への申請や保険の契約といった作業を自宅にいながらにして電子的に行うことができます。政府機関や企業は、電子署名された本人証明のなされた電子フォームから、データを内部の XML データベース等に取り込むことができます。Adobe Acrobat Reader 5.1 はアドビシステムズ社が無償で配布している、PC のプラットフォームに依存しないソフトウェアなので、事実上誰もがこの新しい電子フォームやファイルを活用できる環境が整備されています。

Adobe Document Server for Reader Extensions と Adobe Acrobat Reader 5.1 の組み合わせによって、政府機関や企業と、一般市民、顧客との間で、従来紙で行われていた申請、届出、文書交換等を、電子的に行うことができるようになります。紙の文書は人々にとって使いやすいものですが、記入データをデータベースに再入力する作業は時間とコストがかかり、さらに入力ミス可能性があります。これらのワークフローを自動化することにより、利用者へのサービスが向上すると同時に、コスト削減や業務プロセスの効率化を実現できます。こうしたインターネット等を經由した申請業務には、「権限付与」をされた PDF フォー

ムの数による "Per Form" のライセンスをご提供しておりますので、不特定多数のエンドユーザにこの電子フォームソリューションを展開することができます。

また、Adobe Document Server for Reader Extensions は、組織外部からの申請等の他に、庁内や企業内の業務を「ペーパーワークレス」にするためのイントラネット用の "Per User" のライセンスも用意しています。これにより、行政機関や企業は Adobe Document Server for Reader Extensions を組織内に導入することで、後は無償の Adobe Acrobat Reader が入ったクライアント PC があれば、企業内での文書による業務やコラボレーションを容易に電子化することが可能になります。

PDF 表示・印刷用ソフトウェアである Adobe Acrobat Reader は、世界中ですでに 5 億本以上がダウンロードされています。PDF は、経済産業大臣により準 JIS 規格ともいべき標準情報 (TR) として公表され、日本規格協会から TR X 0026 として認定されているほか、ISO、IEC でも PDF に基づいて文書交換フォーマットを標準化しているなど、世界標準の「電子の紙」として利用されています。Adobe Document Server for Reader Extensions は、この標準化されたフォーマットで、多くの PC で利用されている Adobe Acrobat Reader をインテリジェントな電子申請やコラボレーションの環境に進化させる全く新しいソリューションです。

Adobe PDF フォームおよび PDF ファイルに付加できる機能には、注釈ツール、電子署名、および記入済みフォームの保存、記入データの送信、アーカイブ化といった機能が含まれます。入力された Adobe PDF フォームとフォーム内のデータは、XML (Extensible Markup Language) 形式でデータベースなどの組織のバックエンドシステムに統合することができます。

Adobe Document Server for Reader Extensions は、アドビシステムズ社のソリューションパートナーを通じて販売される予定です。製品の出荷は 2003 年第 2 四半期中を予定しています。

また、5 月 21 日から開催される自治体総合フェア 2003 のアドビブースにて、Adobe Document Server for Reader Extensions によるソリューションを紹介します。

必要システム構成

動作環境

日本語 Solaris™ 8、Windows® 2000 Server 日本語版

アドビシステムズ社について

アドビシステムズ社は、1982 年に創立された、米国カリフォルニア州サンノゼに本社をおくソフトウェア会社です。これまで、法人ユーザおよびクリエイター向けに様々なソフトウェアを提供し、ネットワークパブリッシングを推進してきました。それらの製品は、豊かな視覚効果にあふれ、魅力的で、信頼度の高いコンテンツの制作、管理、配信を可能にします。アドビシステムズ株式会社はその日本法人です。詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> でご覧いただけます。